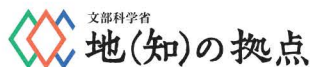




弘前大学が開発した果肉まで赤い新品種「紅の夢」



学生・教職員が地域住民とともに参加する弘前ねぶた



地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)とは

地(知)の拠点整備事業=大学COC (Center of Community) 事業は大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を、文部科学省が支援する事業です。

課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。



HIROSAKI UNIVERSITY

弘前大学

COC推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL 0172-39-3305 / 3306 FAX 0172-39-3309

E-mail coc@cc.hirosaki-u.ac.jp

Web http://coc.hirosaki-u.ac.jp



平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」



「地域人財」を育成する地域志向科目の実施



世界自然遺産・白神山地でのフィールドワーク

青森ブランドの価値を創る地域人財の育成



地域の子どものための学習をサポート



十和田の「にんにく」生産者からの学び





青森の未来のために

弘前大学は、青森県の「地(知)の拠点」を目指します。



学長あいさつ

このたび、喜ばしいことに本学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択されました。

COC (Center of Community) 構想とは、「地域再生の核となる大学づくり」であり、弘前大学が目指す大学像とも大いに共鳴するものです。本事業への取組を推進力として、本学の教育・研究・社会貢献機能をつなげ、「地域を志向する大学」として一層の大学改革を進めてまいります。

本事業には、三村申吾青森県知事、葛西憲之弘前市長にもご賛同・ご参画いただけることとなりました。これから県内の行政関係者の皆さま、経済団体・企業関係者の皆さまをはじめ、多くの地域の皆さまとの連携を紡ぎながら、また学生諸君と志を共有しながら、取組を進めてまいります。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

弘前大学長 佐藤 敬

弘前大学が目指すこと。

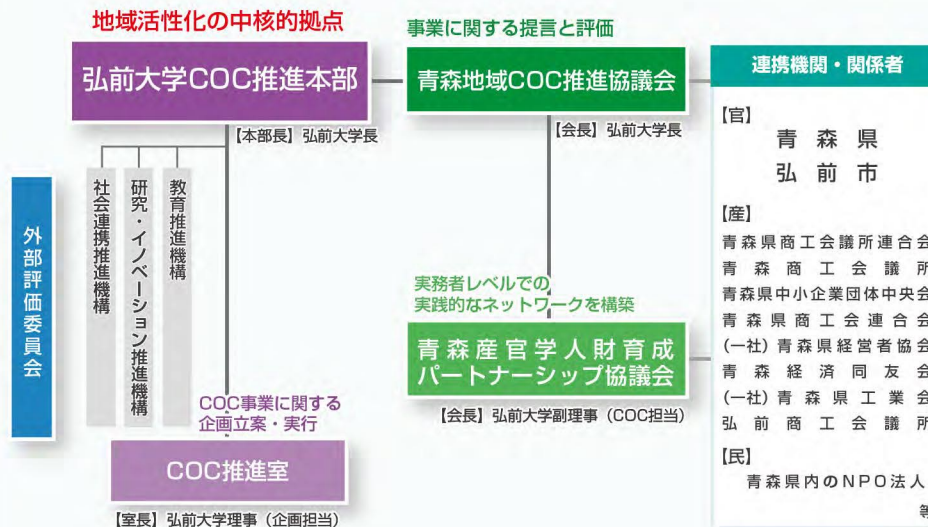
青森ブランドの価値を創る地域人財の育成

1. グローバルマインドを持ち、地域に対する愛着、地域の創造を目指す意欲をもった人財。
2. 複雑化する地域課題に文理の枠を越えて、総合的にアプローチできる文理融合型の人財。
3. 獲得した専門知を活用して、地域の課題解決を主導できる人財。



人口減少等の課題を克服し、「青森ブランド」価値の創造を目指す青森県、「笑顔ひろさき」プロジェクトを進める弘前市と協働し、青森を愛する気持ちを礎として新しい未来を切り開き、地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる「人財」を育成することを目的としています。

弘前大学 「地(知)の拠点整備事業」 実施体制



弘前大学が取組むこと。

「教育」「研究」「社会貢献」の各事業が一体となって、取組みます。

教育

文理両面から、地域の課題を考えることのできる人財を育成します。

- 青森に関して学修する科目(地域志向科目)の必修化。
- 地域の課題を解決できる実践力を備えた専門人財の育成。
- 入学から卒業までの「地域を志向したキャリア教育」。

項目	平成26年度	平成30年度(目標値)
地域志向科目数	91科目	200科目
地域志向科目履修者数	3,856人	15,000人
地域課題をテーマとした卒業論文数	66編	120編
県内就職希望率	36.8%	50%

研究

地域の「強み」を活かす研究活動を推進します。

- 文理を融合した共同研究による「青森ブランド」の価値を創造。

項目	平成26年度	平成30年度(目標値)
共同出願特許件数	5件	30件
ベンチャー創出件数	1件	6件

社会貢献

地域の皆さまとともに青森の未来づくりに貢献します。

- 地域課題解決のための多様なプログラムの開発・提供。
- 地域の人々と学生が協働する社会参画の仕組みづくり。

項目	平成26年度	平成30年度(目標値)
社会人等の教育機会の開講数	16件	50件
上記の受講者数	1,457人	6,000人
学生の地域貢献活動の参加者数	211人	612人